

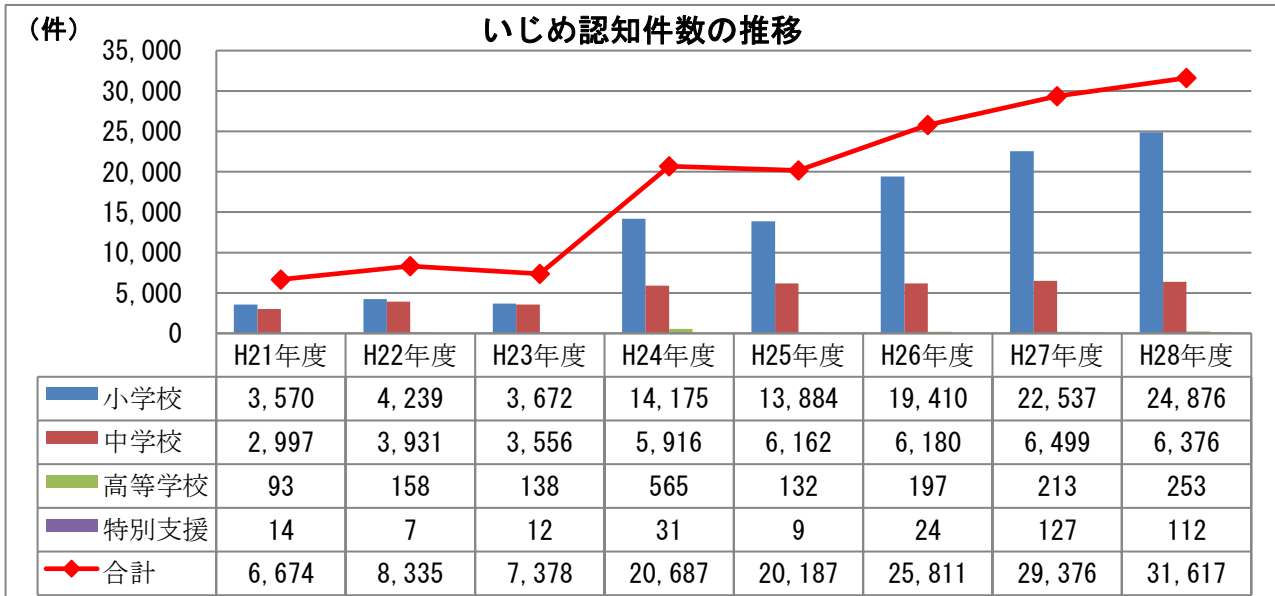
第3回 次世代へ光り輝く「教育立県ちば」を推進する懇話会 資料

千葉県教育庁教育振興部児童生徒課

いじめや不登校に対する取組や対応について

1 いじめの状況（平成28年度 県内公立学校）

(1) いじめ認知件数の推移



小・中・高・特別支援の公立学校はいじめの認知件数の合計は、31,617件で、前年度に比べ2,241件増加している。解消率は86.8%（前年度85.1%）となっている。

(2) 全国との比較 [小・中・高・特別支援学校での認知件数]

	H28年度	H27年度	増減	H28年度 1000人あたりの認知件数
全国(国公立)	323,143	225,132	+98,011	23.8
千葉県(公立学校)	31,617	29,376	+2,241	54.6

(3) 主ないじめの発見のきっかけ

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
1 アンケート調査等(68.3%)	アンケート調査等(68.3%)	アンケート調査等(57.9%)	アンケート調査等(54.9%)	アンケート調査等(59.8%)
2 本人からの訴え(13.5%)	本人からの訴え(13.5%)	本人からの訴え(17.7%)	本人からの訴え(22.5%)	担任が発見(24.1%)
3 担任が発見(10.2%)	担任が発見(10.2%)	担任が発見(8.8%)	担任が発見(7.5%)	本人からの訴え(9.8%)

(4) いじめの態様 [件数、複数選択可]

区分	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
冷やかしからかい、悪口等	14,847	4,085	132	68	19,132
仲間はずれ、集団による無視	4,642	1,177	25	2	5,846
軽くぶつかられる、叩かれる等	6,365	999	28	36	7,428
ひどくぶつかる、叩かれる等	1,542	255	10	3	1,810
金品をたかられる	297	100	8	2	407
金品を隠されたり、盗まれたりする等	1,782	481	11	0	2,274
嫌なことや、恥ずかしいことをされる等	1,653	360	31	2	2,046
パソコンや携帯電話での誹謗中傷	329	516	52	4	901
その他	818	171	30	1	1,020

(5) いじめ防止等の対策

①いじめ防止のための取組の推進

○児童生徒自らいじめに関する問題を主体的かつ真剣に考えることができる取組

「いのちを大切に作るキャンペーン」（1学期が強化期間）、「『いのち』のつながりと輝き」を主題とし「考え、議論する」ことを意識した道徳教育、道徳映像教材の活用など

○児童生徒が互いに良好な関係を築くことができる取組

「豊かな人間関係づくり実践プログラム」（小学校から中学校まで年間4時間計36時間）など

②いじめの早期発見のための取組の推進

○定期的なアンケート調査、個人面談等の推進

③人材の確保及び資質の向上

○研修の充実を通じた教職員の資質の向上、教職員配置の充実

平成27年度から、いじめ防止対策研修会（29年度は教育相談担当、30年度は管理職対象）、いじめ問題対策リーダー養成研修（2泊3日）を実施

○スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置

スクールカウンセラーを公立小学校150校、全ての公立中学校、県立高等学校80校に配置（高校の未配置校はグループ化）

スクールソーシャルワーカーを小中学校は拠点校15校に、高等学校は拠点校7校（定時設置校）と地域連携アクティブスクール4校（単独型）に配置

④いじめ防止啓発活動

○「24時間子供SOSダイヤル」等の相談機関の周知徹底

○いじめ防止啓発強化月間（毎年4月）における取組強化

○児童生徒向け「いじめ防止啓発カード」、児童生徒・保護者向け「いじめ防止啓発リーフレット」の配付

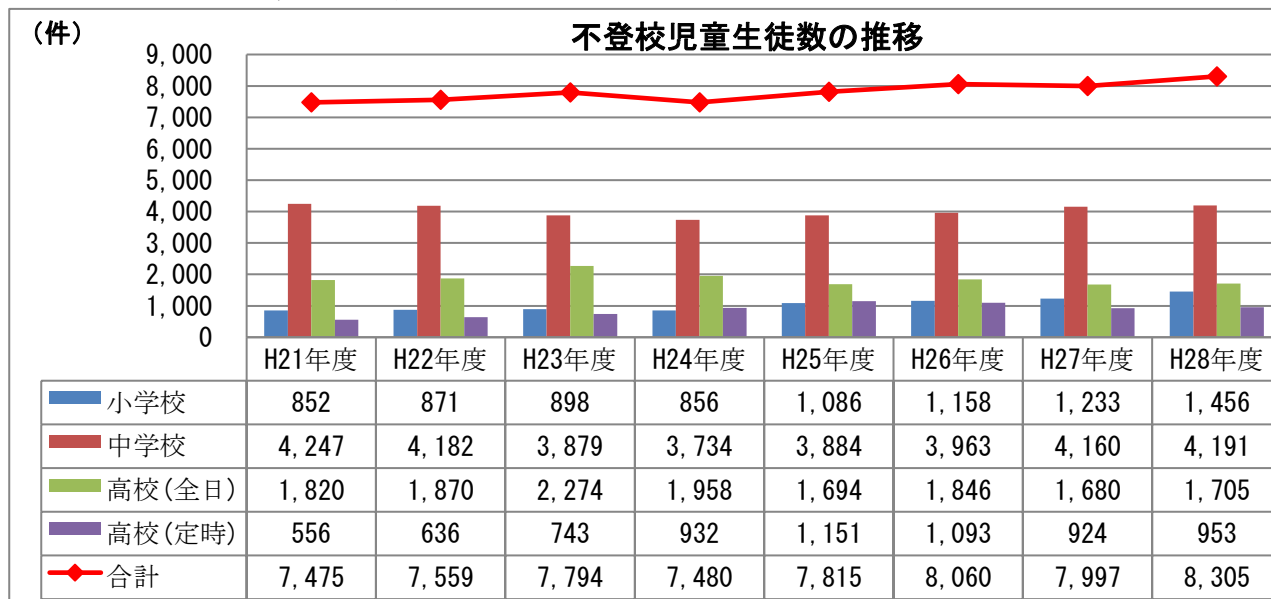
○教職員向け「いじめ防止対策リーフレット」の配付

⑤インターネットを通じて行われるいじめへの対策

○児童生徒への情報モラル教育や教員のネットいじめ対策研修、教員及び保護者への啓発のための研修等への講師派遣事業

2 不登校の状況（平成28年度 県内公立学校）

（1）不登校児童生徒数の推移



小・中・高等学校の不登校児童生徒数の合計は、8,305人で、前年度に比べ308人増加している。小学校の28年度不登校児童数は1,456人と過去最多となっている。

（2）全国との比較 [小・中・高等学校での人数]

小・中学校

小中学校	H28年度	H27年度	増減	H28年度1000人あたりの不登校者数
全国(国公立)	133,683	125,991	+7,692	13.5
千葉県(公立学校)	5,647	5,393	+254	12.1

高等学校

高等学校	H28年度	H27年度	増減	H28年度1000人あたりの不登校者数
全国(国公立)	48,565	49,563	-998	14.6
千葉県(公立学校)	2,658	2,604	+54	25.5

（3）主な不登校の要因

学校・家庭に係る要因

	小学校	中学校	高等学校
1	家庭に係る状況 (44.4%)	いじめを除く友人関係 (26.7%)	学業の不振 (19.6%)
2	いじめを除く友人関係 (18.7%)	家庭に係る状況 (23.3%)	いじめを除く友人関係 (15.9%)
3	学業の不振 (10.6%)	学業の不振 (21.4%)	家庭に係る状況 (12.8%)

本人に係る要因

	小学校	中学校	高等学校
1	無気力の傾向 (31.0%)	無気力の傾向 (34.3%)	無気力の傾向 (41.8%)
2	不安の傾向 (30.1%)	不安の傾向 (25.4%)	あそび・非行の傾向 (15.2%)

（4）不登校対策

①不登校対策支援チームの派遣

福祉、心理の専門家、不登校対策専門指導員、不登校担当指導主事から構成する支援チームを、学校や市町村教育委員会に派遣し、不登校支援体制や解消が困難なケースに関する助言

②不登校対策指導資料集の活用

資料集を活用し、各学校における未然防止・早期対応等の取組の充実や、教職員の指導力向上を図る

③不登校対策推進校の指定

県内小中学校125校を指定し、不登校児童生徒支援教室を設置して不登校児童生徒の支援を行う

④人材の確保及び資質の向上

○訪問相談担当教員の配置

不登校等対策拠点校12校に配置し、家庭訪問や電話相談を通して登校復帰に向けた支援・助言、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・関係機関等との連携を行う

○スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置

スクールカウンセラーを公立小学校150校、全ての公立中学校、県立高等学校80校に配置（高校の未配置校はグループ化）

スクールソーシャルワーカーを小中学校は拠点校15校に、高等学校は拠点校7校（定時設置校）と地域連携アクティブスクール4校（単独型）に配置

○各種研修の実施

スクールカウンセラー等研修会、訪問相談担当教員研修会、教育相談ネットワーク連絡協議会（市町村教委等の教育相談担当者対象）において、担当者の資質向上を図る。

⑤子どもと親のサポートセンター事業

○教育相談事業

電話・面談・ファックス・メールによる教育相談を実施

○サポート広場

プレイルーム等での集団活動や保護者対象の懇談会を実施、年14回、地域開催有

○不登校サポートセミナー

保護者・不登校支援者向けの講演会、年11回、地域開催有